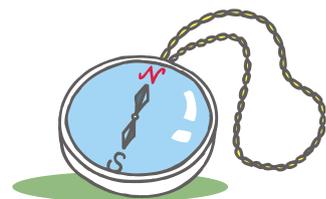


# 羅 針 盤



第 **12** 号 令和4年（2022年）7月4日（月）

## ◆ 6月23日「沖縄全戦没者追悼式」より

沖縄戦から77年もの月日が経過し、最後の激戦地となった沖縄県糸満市にある摩文仁（まぶに）にある平和記念公園では、太平洋戦争末期の沖縄戦での犠牲者を悼（いた）む「慰霊の日」（6月23日）に「沖縄全戦没者追悼式」が営まれました。新型コロナウイルス感染症の感染状況等を考慮するとともに、参列される高齢者の方々の健康等に配慮して、昨年と同様に規模を縮小しての開催となりました。今年追悼式に参列された方は、合計で約320人での実施（例年は約5000人の方が参列されています）となったそうです。式典では、児童生徒を代表して、沖縄市立山内小学校2年生の徳本穂菜（とくもとほのな）さんによる平和の詩「こわいをして、へいわがわかった」が朗読されました。（全文を掲載します。）戦争や平和への思いを表現する「児童・生徒の平和メッセージ」には、図・作文・詩などの作品が113校から2379点の応募があり、徳本さんの作品は、家族で戦争の悲惨さを伝える美術館を訪れた時に見たことがありのままに表現されていて、きょうだい喧嘩をしても仲直りできた身近なエピソードも交えながら平和の大切さを伝えている内容となっており、作品の最後を「せんそうがこわいからへいわをつかみたいずっとポケットにいれておく」といった印象的な言葉で締め括られています。審査員の方からは、「自身の言葉で表現し、独特の視点で書かれ心が動かされた」と高い評価を得た作品として、今年の「慰霊の日」の平和の詩に選ばれました。



## 「こわいをして、へいわがわかった」

びじゅつかんへお出かけ

おじいちゃんや

おばあちゃんも

いっしょに

みんなでお出かけ

うれしいな

こわくてかなしい絵だった

たくさんの人がしんでいた

小さな赤ちゃんや、おかあさん

風ぐるまや

チョウチョの絵もあったけど

とてもかなしい絵だった

おかあさんが、

七十七年前のおきなわの絵だと言った

ほんとうにあったことなのだ

たくさんの人たちがしんでいて

ガイコツもあった

わたしとおなじ年の子どもが

かなしそうに見ている

こわいよ

かなしいよ

かわいそうだよ

せんそうのはんたいはなに？

へいわ？

へいわってなに？

きゅうにこわくなって

おかあさんにくっついた

あたたかくてほっとした

これがへいわなのかな

沖縄市立山内小学校2年 徳本穂菜

おねえちゃんとけんかした

おかあさんは、二人の話を聞いてくれた

そして仲なおり

これがへいわなのかな

せんそうがこわいから

へいわをつかみたい

ずっとポケットにいれてもっておく

ぜったいおとさないように

なくさないように

わすれないように

こわいをして、へいわがわかった